

授業科目 人体機能解剖学特論	科目概要・形式 講義 2単位 30時間	配当年次 1年 後期
科目責任者	鈴木 孝夫	
担当者	鈴木 孝夫、李 相潤	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>人体を構成する諸器官はそれぞれ合目的に形成されている。各器官が持つ個々の特性は、これらを統制・制御する内分泌・神経系を中心とする生体情報によって恒常的に維持されている。これら各器官系について、肉眼さらには細胞・組織学的レベルの形態学的な相同・相違（比較形態学）から解析を行い、形態の奥に潜む生物学的原則を理解する。さらに、他の動物には見られない人体構造の特性を、脊椎動物の進化にともなう人体各部の形成機序－系統発生的見地－、及び、各器官系の胎生期における形態形成過程－個体発生的見地－を通して、その必然性を理解する。</p>		
<p>2. 授業計画・内容</p> <p>各器官系について、その基本構造に関する英文を抄読すると共に、実際にマクロ（肉眼）およびミクロ（顕微鏡）的に標本を観察・理解し、その形のもつ必然性を学習・理解する。</p> <p>第1回 運動器系Ⅰ：骨・筋・関節の基本構造に関する英文抄読 第2回 運動器系Ⅱ：骨・筋・関節の形態形成に関する英文抄読 第3回 運動器系Ⅲ：骨・筋・関節のマクロ的標本観察 第4回 運動器系Ⅳ：骨・筋・関節のミクロ的標本観察</p> <p>以下、各器官系についても運動器系Ⅰ～Ⅳと同様に授業を展開する。</p> <p>第5回～第8回 循環器系Ⅰ～Ⅳ 第9回～第11回 内臓系Ⅰ～Ⅲ 第12回～第15回 中枢・末梢神経系Ⅰ～Ⅳ</p>		
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>英文文献、ならびに講義・実習のポイントをまとめたプリント、小冊子を配布する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Moore & Dalley: 「Clinical Oriented Anatomy 4th ed.」, Lippincott Williams & Wilkins, 1999年、ISBN 13: 9780683061413 ・Bloom & Fawcett: 「Concise Histology」、Thomson Publishing、1997年、ISBN 0-412-07971-2 ・A. ポルトマン著 島崎三郎訳: 「脊椎動物比較形態学」、岩波書店、1979年 		
<p>4. 成績評価方法</p> <p>出席状況および課題レポートにより総合的に評価する。</p>		
<p>5. 受講要件</p> <p>無し</p>		
<p>6. 社会人学生に対する配慮</p> <p>講義日時については相談に応じる。</p>		
<p>7. その他</p> <p>出席の際には白衣等を持参する。</p>		